



気象予測データを基にした農作物被害軽減情報ウェブシステム

研究のねらい

従来の気象観測データに加えて、予測データを用いた農作物生育予測や水稲深水管理に関する情報は、農業気象災害の軽減に有効である。そこで、そのような情報を発信するウェブシステムを開発し、生産者の栽培管理を支援する。

成果の内容

- ①システムはデータベースサーバとウェブサーバとで構成されている（図1）。ウェブサイトのURLは、<http://tohoku.dc.affrc.go.jp/yamase.html>である。
- ②主な提供情報は、1 kmメッシュに展開された7日先までの気象予測データ、気象予測データを用いた水稲の深水管理警報（図2）、水稲の危険期予測情報（図3）、寒締めハウレンソウの生育予測情報である。なお、寒締めハウレンソウの生体重予測情報は2007年9月以降に稼働開始予定であり、播種日を指定した生体重予測結果グラフが閲覧でき、出荷の調整等にも応用できる。
- ③水稲の深水管理警報マップでは、予測気温17℃以下で深水管理を励行すべき地域がオレンジ～赤色で示される（図2）。この深水管理警報は気温予測データに基づいて作成されるため、やがて来る低温に備えて早めの対策をとることができる。さらに、GISソフトウェア機能により、エリアを拡大すると地名が表示されるため、地域における1 kmメッシュ情報を取得できる。
- ④水稲生育予測モデルにより、気象実況データと気象予測データに基づいた危険期・出穂期の予想日がマップで示され、より効果的に深水管理等の対策を実施できる（図3）。

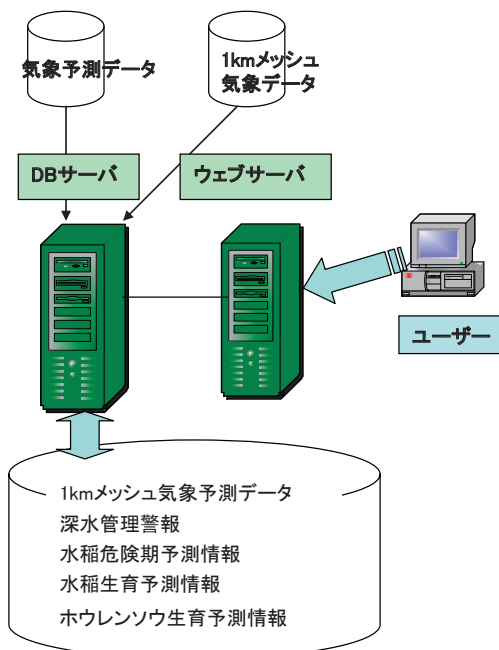


図1 システムの概念図

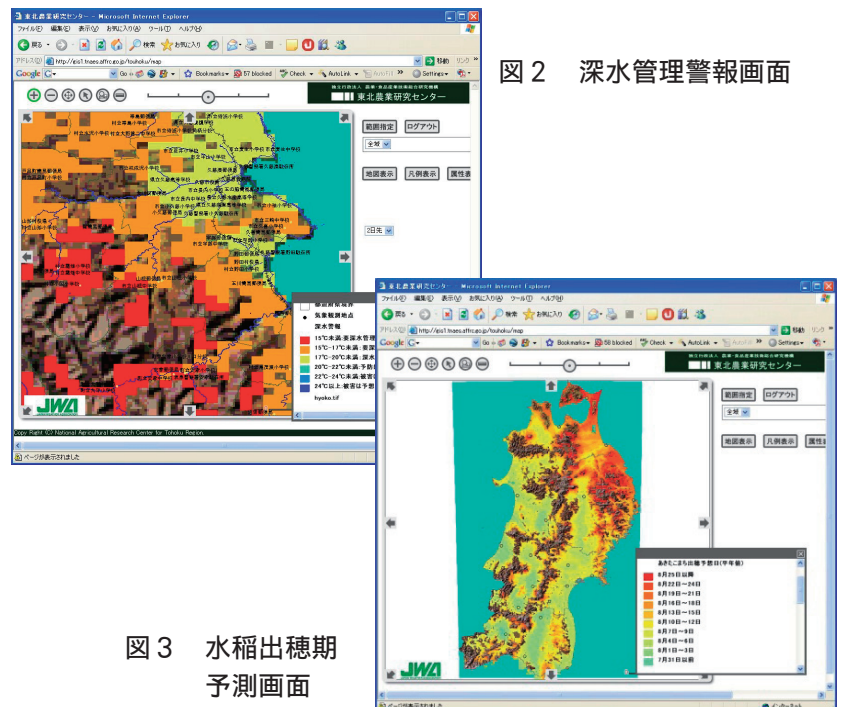


図3 水稲出穂期
予測画面

成果の利活用

本システムは、気象データを用いた他の品目の作物生育予測モデルも搭載可能であり、複数の品目に関する栽培支援情報提供のプラットフォームとして活用できる。